





文化財展 12/11(月)~12/18(月)

会場:柏原公民館 階段・2 階廊下 【開館時間】9:00~17:00 「埋蔵文化財調査の流れ」と「柏原地域の遺跡・遺物」をパネルで解説し、実際 の出土品を展示します。





文化財講演会 12/16(土)

会場:柏原公民館 ホール

※要申込み:11/17(金)から社会教育課へ(連絡先 04-2953-1111 内線 5674)

※講演内容は二部構成なので、どちらかのみの参加でも可能です

13:00 受付開始 講演時間 13:15~14:30

容「縄文土器の文様をつくろう!」

講演担当:社会教育課文化財担当主任

第二部 14:35 受付開始 講演時間 14:45 ~ 16:00

容「柏原の奈良平安時代―鳥ノ上遺跡を中心に―」

講演担当:社会教育課文化財担当主任

西武柏原ニュータウン行き 柏原南下車 徒歩5分。バス所要時間10分。

主催:狭山市教育委員会 協賛:狭山市立柏原公民館

狭山市域の遺跡は、市の中央を流れる入間川の左右両岸に、旧石 器時代から戦国時代までの67箇所の遺跡(埋蔵文化財)が、川に 沿う形で点在しています。いずれも当時の人々の生活を知る上で、 たいへん貴重なものです。しかし、昭和40年代後半より増加した 諸々の開発行為等により、これらの遺跡の保存が難しい状況になっ てきました。こうしたことから、本市では、開発行為等によって形 としては無くなってしまう埋蔵文化財を事前に発掘調査し、出土品 を保存するとともに、発掘調査報告書を刊行するなど、遺跡の記録 保存事業を行っています。

これまでの埋蔵文化財発掘調査に伴う記録保存事業により、出土 した土器などの遺物は、膨大な量に及びます。これらの出土品は、 貴重な国民的財産であり、公共のために大切に保存するとともに、 公開する等その文化的活用に努めていくことが求められています。 今回の文化財展では、埋蔵文化財の調査の方法を解説とともに紹介 します。また、柏原地域には縄文時代の丸山遺跡や宮原遺跡、奈良 平安時代の鳥ノ上遺跡や城ノ越遺跡、中世は城山砦跡や英遺跡があ り、実際に柏原地域で出土した遺物を中心に調査成果を解説ととも にあわせて紹介します。

今回の文化財展が、市民の皆様をはじめ、多くの方々に埋蔵文化財 の重要性をご理解いただくとともに、本市の歴史または地元の歴史 に触れるきっかけとなれば幸いです。

平成29年12月

狭山市教育委員会(主管:社会教育課)

当成文化がの意味。調査の「流れ」と「方法」



「埋蔵文化財」とは「地中」に埋蔵された状態で発見される「文化財」のことを指します。簡単に言うと「遺跡」や「遺物」と言えば分かりやすいのではないでしょうか。 遺跡になる時代は、主に中世以前の遺跡が該当しますが、地域によっては、近世の遺跡も埋蔵文化財の対象となります。

遺物というと石器や縄文土器、須恵器、土師器、鉄製品などが当てはまります。

狭山市内には旧石器時代から中世に至るまで、67箇 所の遺跡が発見されています。遺跡の場所については、 次のパネルに掲載しています。



理蔵文化財とは

STEP1 照会

社会教育課窓口で包蔵地に該当するか確認します。

該当する場合は次の STEP へ、該当しない場合は調査終了です。

STEP2 提出

開発行為の60日前までに埋蔵文化財発掘届を提出してください。 当市では届け出の他、土地所有者の承諾書が必要となります。

STEP3 調査履歴の確認

以前調査が行われているかについて確認します。

調査が行わていない場合は次の STEP へ、調査が行われている場合は、調査終了です。

STEP4 既存建物の有無の確認

既存建物がある場合は STEP5 へ、既存建物がない場合は STEP6 へ

STEP5 立会い

既存建物の解体時に職員が立会います。

立会いの結果遺構が検出もしくは遺構確認面が荒らされていない場合は次の STEP へ、遺構の検出がなく、 遺構確認面が破壊されている場合は調査終了となります。

STEP6 確認調査

重機を該当の土地に入れ、トレンチ(溝)を掘り遺構の有無を確認します。 トレンチは基本的に関東ローム層(赤土)まで掘ります。

遺構が確認された場合は次の STEP へ、遺構が確認されなかった場合は調査終了です。

STEP7 協議

盛土や設計変更等で遺構の保存ができるかどうかを事業者と協議します。

可能な場合は STEP8 へ、不可能な場合は STEP 9へ

STEP8 立会い

のため、職員が立ち会います。

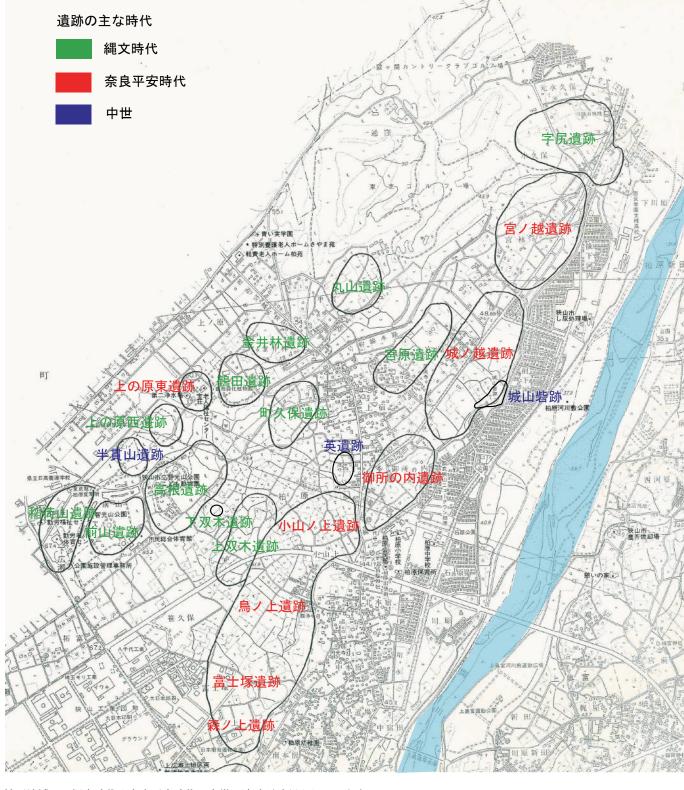
STEP9 発掘調査

工事開始時に遺構の保存ができているかの確認 drugが免れない遺構について発掘調査を行い、 記録保存を行います。



調查終了

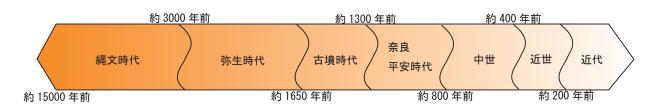
相原地域の遺跡



柏原地域では縄文時代や奈良平安時代、中世の遺跡が確認されています。

特徴としては入間川の河岸段丘の三段目にすべての遺跡が位置していることです。河岸段丘は川の流れにより両岸が削られてできるもののため、はるか昔には河岸段丘面まで川幅があったと想定できます。段丘の頂上に遺跡があるのも当時の人びとの知恵と考えられます。

時代年表 ※年代については諸説ありますが、一般的なものを大雑把に示しています。



柏原の遺跡

学に対象的な自の流れる意味変勝代住居跡の一例



①調査区の表面の土を重機で全て剥ぎます。当市においては関東ローム層(赤土)まで剥ぎます。

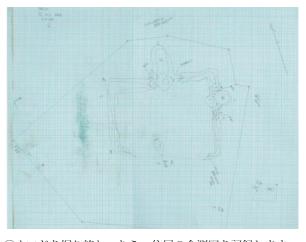
昔の遺構は、関東ローム層より深く掘るため、関東ローム層の中にまとまった黒土があった場合は遺構の可能性が高いです。



③断面図を作成します。

断面図はどのように遺構が埋まったのかを記録するため に作成します。

作成後は、断面図をとった部分を取り除きます。



⑤カマドを掘り終わったら、住居の全測図を記録します。 全測図には方位や遺構の深さなども加えていきます。 また、特徴的なものや気になるものがあった場合は全て 図面に書き込みます。



②調遺構のプラン(形)の確認を行い、遺構を十字に区分けし、区ごとに掘り下げます。

多くの住居の床面は、当時の生活により踏み固められているため硬くなっており、どこまで掘るかは土の硬さで判断します。



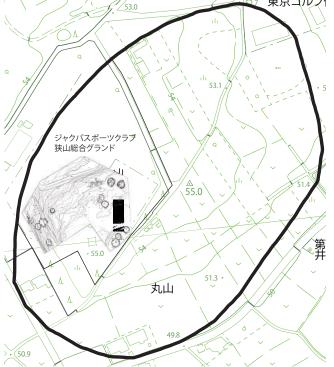
④カマド部分を十字に区切り、一区画ごとに掘ります。一 区画ごとに掘り終わったら断面を取ります。

カマドの中には多くの遺物が入っていることが多いため、慎重に掘ります。



⑥脚立等を使用し高所から遺構の全体の写真を撮ります。 写真を撮る際は、全体を掃除し、乾燥してた場合は水を 撒くなどします。

相原の縄火箭ペー



字尻遺跡

川越との市境にあり、現在のホンダ運送株式会社周辺になります。

大規模な発掘としては、ホンダ運送株式会社柏原倉庫を 建設する際に実施しています。

その際に出土した遺構は柄鏡型住居跡 4 軒、土壙 3 基です。出土した遺物は中期後半から後期初頭のものが多く検出されています。



字尻遺跡出土遺物
- 48.1
- 48.1
- 48.1
- 47.2
- 49.2
- 49.9
- 50.1
- 50.1
- 50.1
- 50.1
- 50.1
- 50.1
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9
- 50.9

丸山遺跡

現在のジャクパスポーツクラブ狭山総合グランド周辺に当たり ます。

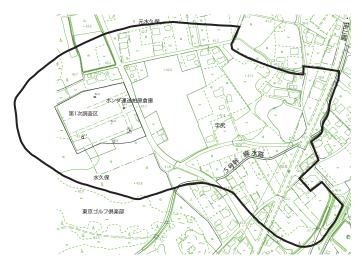
現在のグランドの前身である国際短期大学狭山総合グランドを 建設する際に大規模な発掘調査を行っています。

その際に出土した遺構は、住居跡14軒、集石土壙1基、土壙12基です。出土した遺物はコンテナで70箱にのぼり、復元された土器は100個体を越えます。出土した土器の様式としては約7割が勝坂式、約3割が加曽利E式となっています。時期としては縄文時代中期にあたります。





丸山遺跡出土遺物



宮原遺跡

長源禅寺周辺になります。

発掘調査は長源禅寺北側の鉄塔を建設する際に実施しています。

その際に出土した遺構は住居跡6軒、土壙10基、単独埋 甕1基、遺物包含層(遺物を多く含む層)1箇所です。出土 した遺物はコンテナ8箱程度と少ないですが、遺物を多く含 む層からは縄文時代前期から後期の遺物が幅広く出土してい ます。時期が明確になっているものは後期の住居跡2軒のみ となっています。



宮原遺跡出土遺物

相原の余息の上遺跡に

宮ノ越遺跡

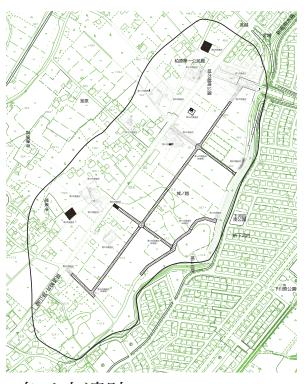
入間川の河岸段丘の3段目にある鯨井線沿いの西武柏原 ニュータウンの周辺になります。

ニュータウンの造成に際し、大規模な発掘調査を実施しており、その際は住居跡65軒、掘立柱建物跡18棟、土壙墓3基が検出されています。その後も住宅の建設等で調査を行っており、発掘調査では住居跡67軒、掘立柱建物跡18棟、土壙墓4基が確認されています。





宮ノ越遺跡出土遺物



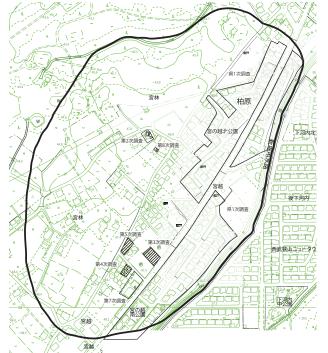
鳥ノ上遺跡

県道堀兼・根岸線の南側に位置し、現在の八千代工業の西側周辺になります。

現在までに2回調査が行われており、住居跡が3軒、掘立柱建物跡が1棟、土壙6基、道路状遺構が1条検出されています。出土遺物は8世紀中ごろの須恵器や土師器が出土しており、市内でも奈良平安時代の集落としては古い集落になります。



鳥ノ上遺跡出土遺物



城ノ越遺跡

宮ノ越遺跡の南西側に位置し、遺跡の範囲内には城山砦を 含んでいます。

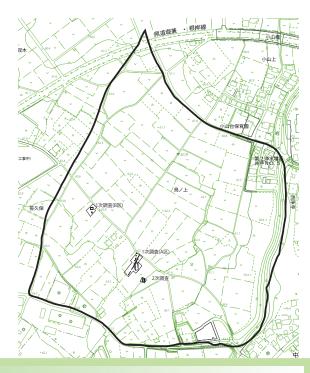
圃場整備や個人住宅の建設、ガソリンスタンドの建設等で 発掘調査が行われており、現在までに、住居跡55軒、掘立 柱建物跡14棟、土壙83基、溝8条等が検出されています。

出土遺物は8世紀から9世紀ごろの須恵器および土師器が 大半を占めています。





城ノ越遺跡出土遺物



相原の計場・製造物



城山砦跡

城山砦跡は天文14年(1545)9月から半年近くにわたり、山内上杉氏の上 杉憲政が陣を敷いたと伝えられており、別名を上杉砦といいます。

憲政がここに着陣したのは、北条氏の手に落ちた河越城を奪い返すためです。 おそらくここから天文 15 年 (1546) に起きた日本三大夜戦のひとつ「河越夜戦」 に突入したものと考えられます。

近接する英遺跡から出土しているかわらけや内耳鍋は憲政が着陣していたとき に率いていた兵たちの生活痕だと思われますが、遺物の出土は大変少なくどのよ うな陣地を構築していたか等の詳細は不明です。

城山砦跡は現在まで3回発掘調査を行っています。





かわらけ (英遺跡出土)



中世に使用されていた土器。食器等として使用されていました。現代でも陶器として神棚に祀る際に使用使用したりします。

内耳鍋 (英遺跡出土)



中世に使用されていた、内側にツル等を通す輪がついた鍋のことです。輪が外側でないのは、火にくべた時に ツル等が燃えないようにする為です。